

はじめに

「近江の子ども俳句教室」（投句部門）を開催しました。たくさんの皆様から投句をいただきました。どの作品もすばらしく感動して読みました。その作品の中から、是非、多くのみなさんに読んでほしい、味わってほしいという作品を冊子にしました。

「近江の子ども俳句教室」（投句部門）の募集をした「NPO（特定非営利法人）現代の教育問題研究所」は「国語力は人間力」という考えをもって、国語を大事にしてほしいという願いをもっている人たちの集まりです。その中で、今回は、小学生のみなさんに、俳句に関心をもってほしいという気持ちで計画しました。俳句は、江戸時代から、ずっと続いている日本の文化です。日本というすばらしい国で生きることの幸せを、俳句という形で表現してきた人々の心を知ってほしいことと、自分でも体験してほしいという気持ちを込めています。

うれしいことに、応募してくださいました人は一五八一人、応募総数は三一六二句です。その全てを冊子に載せることができません。そこで、特選・入選というものをきめ、受賞者の作品を載せることにしました。作品を作っている一七文字という短い言葉から、様子や気持ちを想像して楽しく読んでください。

「国語力」は言葉を大切にします。「国語力」は人を大切にします。「国語力」は命を大事にします。冊子を読みながら、作品を通して、作者と対話し、俳句に興味を持ち、「国語力」という言葉がすきになってほしいと願っています。

令和三年二月

特定非営利法人現代の教育問題研究所

理事長

吉永 幸司

小学生のみなさんへ

みなさんのすばらしい俳句を三一六二句も読ませてもらいました。感動しました。心がさわやかにになりました。心たがうきうきしました。そしてこころがあたたかくなりました。心

言葉って、素晴らしい人にも、また相会ったことがない人も、自分感動を伝えられ、またごい力を持っていてのすね。

みなさんは、そのすばらしい言葉の力を活かして、俳句という形で感動を表現してくれました。感動するということ、このすね。小さな生きものや野に咲く花や、空や雲や風や、みんこの世の中にあるものを、そのいのちのあり方や生きている姿や、そしきいて、それらの素晴らしい世界の感じているからできるしつかり聞き、みなさんにはそんな力がみなぎっている。そのすね。みなさんの心は、友達や家族やいろいろな人の気持ちもとても優しく細やかに感じられる心にな

世界には、みなさんのまだ知らないすばらしい世界が広がっています。そのすばらしい世界が、あなたを待っています。

令和三年二月吉日

近江の子ども俳句教室
実行委員長
好光幹雄

保護者の皆様、学校の先生方へ

この度はお子様の作品の受賞、入選おめでとうございませす。全国から三千句以上の作品が寄せられ、皆で審査をさせていただきました。いえ、審査と言うより、感動させていただきました。本当に子どもの俳句には大人の俳句には無い純粋なものが真珠のように宿り輝いています。私が小学校現場で、三十年以上、子ども俳句の指導を続けてきたのは、そんな魅力に取り憑かれたからです。

ところで、今の世の中は、バーチャルな世界が広がり、子どもは肌身を持って体験するという機会が昔に比べて少なくなっているような気がします。私が子どもの頃は、夕方暗くなるまで野原で遊び、遅く家に帰ってよく母に叱られたものです。しかし、その頃の夢中になって自然の中で友だちと一緒に遊んだことが、大人になってからの私を支えてくれたのではないかと思うようになりました。ノール受賞者の多くが、その神童ぶりを語るのでは無く、子ども時代の素朴なそれでいて豊かな体験をしたことが人生の大きな宝物であるという話をよくします。

俳句を詠むということは、ある意味で、そんな貴重な体験を言葉を通して表現すること、体験を意味づけたり価値付けたり、そして自分の財産として残すことに繋がっているのだと思います。つまり、単に体験をするだけではない、体験を言葉によって、言葉を通して人生の掛け替えのない経験としてあります。子ども時代は単に大人になるための準備期間ではありません。子ども時代を豊かに生きることもそこそが、豊かな大人になることだと私は思います。ですから俳句も細かな形式にこだわらず、どうぞ自由に、お気軽に詠ませてあげてください。そうすることで子どもたちの心と感性がぐんぐん伸びていくことと思います。

深謝。

令和三年二月吉日

近江の子ども俳句教室実行委員長

好光幹雄

あとがき

特定非営利法人現代の教育問題研究所が主催しました「近江子の子ども俳句教室」（投句部門）には、滋賀県ばかりでなく全国各地のご家庭や学校から、多数の応募をいただきました。実行委員一同は大変喜んでおります。ありがとうございます。

寄せられた俳句を読んでいきますと、作者のすぐそばにいて、作者の表情や心まで伝わってくるような気持ちになる俳句とたくさん出会うことができました。嬉しい俳句では一緒に喜んだり、がんばったことの俳句では、応援したりしていました。また、音読すると、組み合わせた言葉の選び方に感心したり、五・七・五の言葉のリズムの心地よさを愉しんだりすることもできました。同じような出来事でも人や時、場面が違っていると、新しい言葉の発見も多数ありました。

俳句はわずか十七音で作る短い詩です。が、いろいろな思いを受け取り、感じる事ができる俳句のすばらしさを改めて感じたのでした。

この冊子は、皆さんの俳句から入選した句をまとめたものです。ぜひ、言葉の選び方、表現の仕方の良さを味わい、言葉のリズムを楽しんでください。家族一緒に読み合っていたり、おススメの俳句についての感想を先生と読み合ったり、気に入った俳句や、おススメの俳句についての感想を話し合うのも楽しいでしょう。できたら、今度はおたがいの俳句を発表して感想を話し合う会も楽しいと思います。それは「句会」というものです。「句会」では、作者の表現の仕方や、読んだ人の感じ方に直接ふれることができますし、自分の俳句の思いがうまく伝わったか確かめることもできるでしょう。

言葉を通してたがいの思いを受け止め合い、喜びも悲しみもわがことのように感じて分かち合い、より深く分かり合う「国語の人間力」を育てていっていただきたいと切に願っています。

最後になりましたが、この度の事業に対して絶大なるご後援を滋賀県知事三日月大造様はじめ多方面の関係各機関様より賜りました。滋賀県、大津市、草津市、滋賀県教育委員会、大津市教育委員会、草津市教育委員会、草津俳句連盟、NHK大津放送局、BBCびわ湖放送、KBS京都放送、株式会社FMおおつ、株式会社えふえむ草津、朝日新聞大津総局、読売新聞大津支局、中日新聞社、京都新聞、産経新聞社、毎日新聞大津支局。併せて、懇切丁寧に対応してくださった職員の皆様、ボランティアとして援助してくださった皆様に、関係者を代表して心より御礼申し上げます。

令和三年（2021）年二月吉日

特定非営利法人「現代の教育問題研究所」

副理事

森 邦 博